

令和7年度福岡市博物館協議会 議事録

日 時	令和8年3月18日（水）10時00分から12時00分まで
場 所	福岡市博物館 講座室1
出席者	福岡市博物館協議会委員 12名 福岡市博物館 28名
議 題	1.議題 (1) 会長・副会長の選任について (2) 令和7年度事業実績について (3) 令和8年度事業計画について (4) 博物館リニューアル推進事業進捗報告

1 開会

運営課長 委員の過半数以上出席であり、本協議会は成立している旨を宣言。
館長 開会あいさつ

2 議題

- (1) 会長・副会長を選任
- (2) 令和7年度事業実績について説明
- (3) 令和8年度事業計画について説明
- (4) 博物館リニューアル推進事業進捗報告

3 質疑応答

以下のとおり

◎令和7年度事業実績に関する質疑応答

委員 先進的な、特に歴史という観点で未来を射程に入れた展示は、市民社会に対する語り掛けとしてもすばらしいものと感心している。数年前は、展示等の建付に地域社会、その時は校区・公民館が単位となって組み込まれており、実際に非常に効果があるプロジェクトをしていたと感じている。例えば、資料に出ている4の「大灯籠絵展」も、地域に保存されていたものということで、プロジェクトとして地域の大きな参画があったと思う。(今回の「魔法の歴史スコープ展」でアプローチしている)大学というのは、協力機関としてマネジメントもしやすく、実りも多くあるだろうと思うが、地域に対する参画については、どのように進めているのかを聞きたい。委員になってから何度も伝えているが、世界では展示に地域の人が参画することは定着している。特に、マイノリティ問題などを抱える社会においては、シミュレーションとか、博物館が地域に果たす役割がある。福岡市は、多様性を打ち出していることから、地域に根差した展示を具体的に組み込むことはアピールにもなるため、このような質問をした。

事務局 「魔法の歴史スコープ展」の中で「博物館からの帰り道が楽しくなる街歩きツアー」を3月28日に実施する予定となっている。チラシの中で、このイベントは西南大学のまちづくりサークルとの連携と記載しているが、準備にあたっては西新公民館と西新校区の自治協議会にもご協力をいただき、一緒に西新の歴史をたどりながら街歩きを行うことになっており、地域との連携と言える。また、昨年5月に、「魔法の歴史スコープ展」の内容を市民参加で考えるワークショップを実施している。様々な意見が出た反面、参加者が少なく、課題もあった。

委員 (地域の参画が)続いていることが確認できて安心できた。

事務局 「大灯籠絵展」のその後について、この展示は地域の文化財を展示させていただいたという点で、公民館や地域の保存団体と連携を強く押し出した展示だった。その後、各地域の夏祭りの際に、展覧会で活用したパネルや解説等を再利用し、地域の財産として披露する機会を持っていただいた。特に、1つの地域に関しては、3月末に、一部の資料が県の有形民俗文化財に追加指定されることとなり、地域の文化財をどのように関心をもって繋いでいくかという点で注目している。資料の保管・活用では、「守りたい」「見せたい」という地域の要望にできるだけ応え、地域の文化財を末永く保管・活用する支援をしていきたいと考える。

委員 次年度に、サステナブルな制度化として、一つの柱にさせていただければと思う。

委員 福岡市の公民館の状況として、令和7年度から講師等に支払う市の報償費

の基準額が大幅に上がった。

しかし、公民館に配当される報償費の予算額は変わらないため、自主事業がとてもし組みにくい状況になっている。そのため、単なる協力ではなく、ぜひ事業として立ち上げて活動してほしい。その方が公民館として組みやすい。当館としても、地域の皆様の気持ちを汲み取りながら活動していきたい。公民館の置かれている状況も考慮しながらきちんと対応したいと考えている。

事務局

委員

このような公共施設に関して、縦割りではなく、地域全体で共有する施設として、コンテンツの連携などを積極的に行ってほしい。

委員

(この協議会で)公民館とのつながりなど、普通に博物館に来ただけでは知りえない関係を知ることができている。ここに参加している方は、それぞれいろいろな思いで対応されていると思うが、いつも縦割りで終わってしまい、連携が上手くいってない印象がある。博物館の中に、地域に専門に対応するセクションがあるのか、イベントを担当する人が行っているのか、仕組みを教えてほしい。また、課題は整理されているのか。先ほど話が出たように、サステナブルな運営はできると考える。例えば、我々がイベントの問い合わせをした際に、いつも何らかの理由で止まる。回答が遅くなるということは、何かしら抱えているものに課題があるまま、とりあえずイベントとして実施しているだけではないかとの推測もある。組織運営も上手く考えると良いのではないか。ぜひ、検討してほしい。

委員

地域連携の担当は誰がしているか。

事務局

博物館内の組織に、地域連携の担当はない。それぞれの企画や展示ごとに担当がいるため、これまでは、その担当者がどのように連携するかは考えていた。今後は、博物館全体で意識していきたいと思う。

委員

組織的に難しいところがあると思うが、情報共有や人材ネットワークの紹介などを積極的に行うことで、改善につながると思うため、その視点で今後動いてほしい。

委員

小学校の子どもたちが今年も出前授業でたいへんお世話になった。記録を見たら、すごい数の子どもたちが参加しており、勾玉づくりなどいろいろな経験をさせていただいた。昨日、元気に巣立って行ったが、6年生は歴史に大変興味を持つことが、出前授業を通してできたと思う。

昨年度、協議会に参加した際にもお伝えしたが、子どもたちにとっては小学3年生の時にはじめて福岡市博物館というものがあると知る。ただ、そういう場所があると知るが、行ったことがない、どういうところかよく分かっていないので、子どもたちのアピールをどうしたものか考えていたが、今回のディズニー展はすごかった。待ち時間も長く、活気がある展示だと思った。

そのほか、鬼滅展や呪術廻戦展もあったが、うちの学校の子どもたちもかなりの人数が観覧したようで、多くの子ども達に福岡市博物館の存在をアピールできたと思う。その意味で、とてもいいなと思う。

もう一点、博物館に入ってきたときに、一階のフロアにもう少しインパクトがあってもいいと思う。たくさんまだ展示していないものがあるのであれば、一階に置くことで、「お！」と思えるので、博物館が良くなるのではないか。

事務局 この後、リニューアルについてご説明するが、本館の方のリニューアルも控えており、その際に、今いただいたご意見も参考にして、入った時にもっとわくわくするような施設がつくれたらと思う。

委員 私はヨーロッパを中心とした博物館・美術館を訪れているが、そちらでは子ども用のイスやグッズ、子どもがよじ登れるような何かのレプリカといったものが置かれている。日本では、子どもたちが走り回れるような場所や、座ってお絵かきできる場所の設置をあまりしないが、ヨーロッパの場合は、例えば、恐竜があって、その場で子どもたちがお絵描きセットで絵を描いて記憶に残すというような活動が主流になっている。このような動きが、リニューアルをきっかけにあるといい。インパクトと同時に、子どもたちが遊べるようなものの設置の希望も付け加えさせていただく。

委員 私は西日本新聞で子ども面を担当していて、九州国立博物館や福岡市博物館、福岡市美術館は好意的に取材を受け入れてくれる。行けば、子どもは興味を持ってくれるので、アニメやディズニーなどと連携して、常設展や企画展に呼び込む仕組みづくりを、新しいリニューアルで行えば、相互的な良い関係が築けるのではないかと思う。

委員 魅力的な展示をたくさんされていて大変関心を寄せている。広報について、特別展を共催で行うときは、共催の方で広報を行うと思うが、それ以外の部分で、例えば常設展といったところの、博物館の広報戦略をどのように考えているか聞かせてほしい。昨今、紙媒体を脱却する動きがあるが、個人的には紙媒体が好きである。博物館によっては紙媒体をなくしたり、インバウンドに向けて多言語対応で発信していったりする流れがある中で、どのような戦略を持っているのか、現状を教えてほしい。

事務局 広報で、紙媒体として一番出しているのが市政だよりで、毎号、何かしらの告知やお知らせを掲載している。そのほか、展示替えがある際には、そのお知らせもしている。ただ、海外の方や若い方も呼び込みたいというところがあるため、web 媒体における Facebook や Instagram にも少しずつ力を入れているものの、上手い広報がなかなかできていない状況である。ただ、やっぱり紙媒体が良いというご意見もあるため、そういうものもきちっとやっていく。お配りしている『Facata』は、年に4回発行しており、常設展のみど

ころをその時その時でフューチャーして刊行したり、企画展の展示替えを行った際には、概要の説明を1つ1つまとめて配架したりしており、紙媒体の広報物にも取り組んでいきたいと思う。

委員 取りくんでいることは分かったが、広報の計画はどこかで発信しているか。かなりの速さで街も人も変わっているなかで、かなりの数字が迫られている。聞いていると、発信しているのは自分のところの媒体だけで、地域に近寄る対象がまだおらず、次に対処しなければならない課題が見えてきたように感じる。広報計画は、年間プランの中にたてる対象として入っているのか。

事務局 戦略と言えるレベルではないが、市内に全戸配布されており、発信力の強い市政だよりを中心として、展覧会やイベントがある都度、市政だよりや市のホームページ、博物館のホームページ、チラシなどの紙媒体で広報している。ご指摘いただいた点は、自認している。令和8年度の9月から3年程度休館する予定となっていた。後ほど、リニューアルの担当からの報告もあるが、リニューアルが延期されたこともあるため、残された期間で何ができるかを考えていきたい。

委員 資料収集のところで、令和7年度の寄贈は1,565件、寄託は71件となっている。この数が多いか、少ないかは分からないが、どういうルートを通して、どういう手続きを踏んで寄託や寄贈されるのか。

事務局 博物館の資料収集に関して、まずは資料の所蔵者から、「自宅にこういうものがある」と、お問い合わせいただくケースが一番多い。今年度も、所蔵者から電話や来館いただく形でお問い合わせがあり、専門の学芸員が、実際に資料を拝見して、福岡市の博物館として収集するべきかどうかを、学芸課で判断する。収集すると判断した資料を年に一度行われる資料収集委員会に諮り、どうするかを決めている。

委員 実際に寄贈や寄託になるのは、どのぐらいの割合か。引き受けてほしいが、なかなか受け入れてもらえないという話を聞いたが、実際はどうなのか。

事務局 自分が担当している江戸時代の分野では、実際に物を拝見してからになるが、感覚的に福岡市の文化や歴史に関するものであれば、お断りする事例はあまり多くないと思う。全く同じものがいくつもある場合などに、収蔵庫の容量の関係から、お断りすることもあるが、当館の場合は、福岡市に関するものであれば、寄贈・寄託を断ることはほとんどない。

委員 先ほど出た話に戻るが、私も20年前に博物館に入った時に、入口がつめたいと感じた。ただ、スペースが広くて素晴らしいので、使っていないところがあったと思う。10年前にイタリアとコラボで使わせてもらったときに、クラシックコンサートがあって、たくさんお客さんもいて素晴らしいイベントだった。もっとこのようなイベントを増やしたらよいと思う。

- 事務局 10年前のイベントもユニークベニューとして開催したものだと思うが、博物館としてもそのようなイベントをもっとしたいという気持ちはある。ただ、今は、消防法の関係でグランドホールにたくさんの人を集めることが難しい状況。今後のリニューアルで、イベントができるようなしつらえを考えているため、今後人が集まって賑やかにできるようにしていきたいと考えている。
- 委員 広報の話に戻るが、広報は何のためにやるのかという話だと思う。博物館の展示を知らせるのが広報なのか。「休館中は展示がないから広報は少なくても良い」という話になりかねない。そもそも、博物館と社会の双方向コミュニケーションを促すのが広報だと考えたら、休館中こそ、広報活動を転換して、新しい広報をつくっていくチャンスではないかと思う。今の広報でも、学芸員の活動を知らせる「あちこち学芸員」は双方向コミュニケーションに近いような感じがする。このように日常を伝えていく広報や、学芸員が地域に出かけて行って、地域を発掘することを記事にしていくような広報を積み重ねていく中で、地域側も「博物館と何か組んでみよう」、「これは何か事業になるかもしれない」という発想が出てくると思うが、今はその類の情報がないため、なかなか組みにくいかもしれない。この点を含めて、地域と連携の掘り起こしにおいても、博物館の今を知ってもらうことにおいても、休館中こそ、面白い新しい広報を検討してほしい。また、小学生がなかなか知らないということも、例えば、『Facata』の小学生版をつくるならどういった紙面ができるかを考えてはどうか。分量がもっと少なくてもよいので、小学生向けのメッセージ、小学生が目を通したくなるようなメッセージをこめて全小学生に配布すれば、授業で使われるなど、いろいろな展開があるかもしれない。ぜひ、外からアクセスしたくなるような広報をお願いできればと思う。
- 委員 委員のいう通り、休館中だからこそ、新しい福岡市博物館はこういうところになるという情報を、単に展示をするのでなく、福岡に暮らす人々にどういう生活があって、これからどういうふうになるかというメッセージ、そしてまた、そこに行くことによって、当事者にどういう考えがもたらされるのか、特に、持続可能性がある生活をしていくというところでは、環境問題に向き合うといったメッセージなど、これからの生き方を考える場所になることを前面に出してほしい。大学でも、〇〇展というポスターは貼っており、鬼滅などのコンテンツは別だが、学生はそういうものには興味がない。ただ、地域共創学部としては、行けば、どういうところが学びになって、問題提起してもらえるかが分かるようなポスターや SNS があれば、普段心が動かされない学生も「行ってみよう」となると思う。休館中をチャンスと思って、ぜひ取り組んでほしい。
- 事務局 休館中も新しい博物館にわくわくしてもらえるような広報に取り組んでい

きたい。

◎令和8年度事業計画に関する質疑応答

委員 香蘭女子短期大学で講師をやっているが、去年学生に妖怪絵巻を見せて授業を行ったところ、特に留学生の反応がとてもよかった。幽霊妖怪展も、インバウンドなど海外向けに行うのが良いのではないか。

委員 朝ドラの『ばけばけ』がもうすぐ終わるが、そういうものに触発された方々を呼び込めるようなことをしてもよいのではないか。

事務局 いただいたご意見の中でも特に、海外の方に向けた広報については、展覧会の事業が今後実際に進んでいくため、活かしていきたい。

委員 ドラマの中で、登場人物が(怪談を)語ることで、人の心を動かす場面があった。展覧会は、デジタルコンテンツにもご期待くださいとのことだが、デジタルコンテンツとは具体的にどのようなものか。

事務局 現在、デジタルコンテンツについては検討中。当館の資料を使って、もっとお客さんと資料の心理的距離が近くなるような、幽霊妖怪をより身近な存在に感じられるような仕掛けを考えている。例えば、人がなくなると幽霊の姿になることがあるかもしれないということから、自分の姿を映すと幽霊の姿も映されるような、インタラクティブな仕掛けを検討している。協賛は、anno lab(あのラボ)という、展覧会でのデジタルコンテンツの経験が豊富な制作集団にお願いしている。『ばけばけ』については、今後検討していきたい。

委員 外国の方向けの広報はもちろんだが、現場での対応はどうなっているか。妖怪のコレクションについては、大変関心があるコンテンツだと思うが、内容に必ず英語が記載されているとか、音声の案内があるとか、もしそういうものがあるなら、紙媒体の広報物に、「英語解説あり」と掲載しておく、紹介しやすくなる。(現状、この情報がないため)具体的に何があるか分からない。情報をシェアしてもらえると、紹介する日本人も助かると思う。

委員 音声ガイドが、現状で何か国語対応になっているかも含めて教えてほしい。
事務局 常設展示では、スマートフォンでQRコードを読みとることで、日本語と外国語を音声案内するシステムを導入している。案内は、テキストと音声があり。音声は、日、中、韓、英の4か国語に対応している。テキストは、109か国語に対応している。

委員 特別展では個別に対応しているということか。

事務局 特別展では、個別の対応になっている。常設展と同じような音声ガイドが準備できるかは、特別展によって対応が異なる。今回の幽霊妖怪展に関しては、音声ガイドは用意せず、他の方法で多言語に対応する予定となっている。どこまで多言語での表記の対応を進めていくかは、これから解説の計画も練っ

ていく段階のため、いただいたご意見も含めて考えていきたい。

委員 このような歴史ものについては、Google 翻訳などの精度があまり良くない可能性はある。ただ、古くからある日本的な物に、インバウンドの方々は興味をそそられるということもあるため、難しい言語対応も、今後の課題として、来ていただいた方に喜んでもらえる対応を検討してはどうか。

委員 数年前にも、委員から出た意見だが、個別の言語対応をするときに、今は翻訳ソフトが進んでいるため、下手な翻訳よりいいというものがあったと記憶している。そういうところも含めて、エビデンススペースの多言語対応を考えたほうがよいのではないか。実際、数値では欧米の人が増えているということもあるため、モニタリングを行い、結果に基づいた対応を行い、プロにご意見を聞くなどしてはどうか。この件について、これまで堂々巡りが続いている感がある。

委員 ユニークベニューなどで、コンベンションビューロはどういう対応をしているか教えてほしい。

委員 MICE というと国際会議のみをイメージされることが多いが、インバウンドというか、多様な企業の報奨旅行の受け入れをすることも福岡は多くやっている。その際、個人の旅行ではできない体験や、行けないところに行けるなど、スペシャルな体験が求められ、プランナーもどのような体験ができるか真剣に取り組んでいる。その中で、いつも超えられない壁となっているのが語学で、いいコンテンツは多いが、外国語対応できるかを尋ねると、難しさがある。翻訳ソフトもあるが、こういった方は、きちんと説明をしてもらえるなど、特別対応を求めている。なので、個人の方には、翻訳ソフトはいいと思うが、一方で、お金を落としてもらえるような企業の方には文化に詳しい専門の通訳を専属で雇ったり、すぐに呼べたりするような仕組みがあると、さまざまな層のお客さんに対応できると思う。

委員 委員に質問だが、コンベンションビューロが、お金を出して(自前で)通訳を配置し、特別対応に対応することはなかなか難しいと思うが、外のお金でつけるような仕組みはあるか。お金の動かし方についてアイデアがあれば教えてほしい。

委員 例えば、インセンティブと呼ばれる報奨旅行の方々には、人数や宿泊日数に応じて助成金制度がある。ただ、これは博物館に出すのではなく、来られる企業の方々や海外の旅行者に出すものになっていて、こちら側では、企業の利益に使うものではなく、旅行する人の通訳など、旅行を良いものにするために使わないかと持ち掛けるところまでしかできていない。実際にどのように使うかを決めることはできないが、ひとまず、いくらかのお金を助成しているところである。

- 委員 そのようなお声掛けをしていただくだけでも、先ほどの(専属通訳者を雇う)話が、より現実的になると思う。
- 委員 あとは、日本文化を英語で翻訳することは、文化に対する専門的な理解も必要になる。こちら(コンベンション)側で探すこともできるが、博物館の方でも、そのような通訳者を確保していただけるといいかもしれない。
- 委員 冒頭で博物館関係の方からビジネスにという話が出た。行政で投資という視点はなかなか出てこないと思うが、特別感はお金、収入源につながるため、特別な対応が必要となった時に、このような体制で対応しようという仕組みを考えておいても、いいのではないか。
- 委員 参考に東博の状況をお伝えすると、文化財を用いて地方の観光促進を進めているアトキンソンさんという方がおり、10年以上前に東博で多言語化を進めている際に、よく博物館に来て、英文をチェックしてくれた。その際、第一段階として、英語に問題がないかを見てもらった。だいたいどこにおかしいところがあるものだが、東博の場合は英語を母国語にしている方が対応したので、そのレベルはクリアできた。次の段階では、日本人向けの解説と、外国人向けの解説とでは、まったく別の内容を書くようにした。日本文化の知識がある方と、ない方とでは、説明の仕方は全く異なるということで、学芸では2種類の解説を考え、今も運用している状況である。
- 委員 以前、アトキンソンさんの講演を聞いた時に、京都の文化施設の話がされていた。その施設では、鎧兜が展示されていて、多言語対応していると言っていたが、実際に見ると一言で「helmet」と書いてあり、あれはひどいというお話を聞いた。
- 委員 (解説文の)長さも、日本語では多くても、英語だと3行しかないケースもある。それだけでは足りないと思う。
- 委員 リニューアル時期の広報について、博物館は何を目指してリニューアルをするのか、どういう博物館を目指してリニューアルをするのか、いまいろいろな意見が出る中で、実際にどの意見を採用してリニューアルに入れていくのかを、企画展がない休館の時期にどんどん広報したほうがよいのでは。また、市民が抱える問題は福岡市の問題でもあると思うので、例えば、福岡市長と館長が対談して、リニューアル後はこのような博物館を目指すということを市民に訴え、リニューアルオープン後に市民がすごくワクワクするような、博物館のファンになるような広報に力を入れるべきではないかと思う。
- 委員 私は、幽霊妖怪展の旧吉川観方コレクションは、福岡市博物館が日本や世界に誇ってもいい資料だと思う。急に多言語対応というのは難しいと思うので、休館中にコンテンツを整理して、多言語などに対応できる仕組みを整えてもよいのでは。また、リニューアル後に全国巡回を目指して、コンテンツを育

てていくというのがよいのではないか。

◎博物館リニューアル推進事業進捗に関する質疑応答

委員 災害時に、博物館同士で助け合いをしようと思うが、福岡市博物館の収蔵庫には、ほかの自治体のレスキューした資料を一時保管する余裕などはあるか。そのような役割意識や想定があるかどうかを教えてほしい。

事務局 現状の収蔵庫は収蔵品でいっぱいになっているが、現状の建物でも仮収蔵庫は、借りてきた資料を一時保管したり、災害にあった資料を一時避難したりする想定になっている。リニューアル後に関しては、新収蔵庫ができるため、現状の収蔵庫にも余裕ができる。また、館内にも外部から持ち込んだ資料を一時保管する部屋をつくる予定となっている。災害が起きた時の受入は、実際の状況によって変わってくるが、これらの場所で可能になると思う。

委員 九州の中で福岡県だけが人口を吸収して、伸び続けているため、せめて九州のほかの自治体に、このようなどころでお返しを考えた方がいいと思う。

委員 (新収蔵庫は)ワクワクして見学ができたため、スペシャルプログラムの候補に入れてもらえるとうれしい。コンベンションでお連れするすべての方を入れるつもりではないが、VIP に対し、通路に入る前のスペースで館長や先生に所蔵品などの解説してもらい、リラックスしてカクテルを飲んでもらって、室内でまた解説をしてもらったりするのは、スペシャルな体験として喜ばれると思った。助成金についての補足で、団体の中には、手続きが面倒なので助成金も必要ないという裕福なところも少なくない。そのような団体は、自分たちで特別な通訳を、お金を払って雇っているので、(博物館側で)館長などの解説を丁寧に訳するハイレベルな通訳を育成・確保し、スペシャルなプログラムに組み込んでもらえればと思う。

委員 リニューアルに際し、観光エージェントにバックヤードツアーなどを行うことは、博物館の使い方をみつけてもらう良い機会になるし、需要もあるということなので、ぜひ検討してほしい。

委員 実際に福岡市ではそのような活動に魅力があるし、ハイエンドな方々に向けた窓口もあるため、そこを尋ねればすぐに実現できると思う。一から自分たちでするのではなく、外部組織も活用するといいと思う。

事務局 ユニークベニューは、前回の協議会で PFI の要求水準書の中に力を入れた部分として入れていた。そこは見直すつもりはない。当然、行政が得意な分野、民間が得意な分野があるため、それぞれの強みを活かしてリニューアルに取り組めたらと思う。(ご提案いただいた)プログラムも、行政と民間で協力して検討していきたい。

委員 わくわくする広報については、私も力を入れてほしいと思う。先日、東区の

各地区から集まった会議で、博物館が工事に入ることを知っているか尋ねたら、出席者はまったく知らなかった。学校でも、バスハイクで博物館に行くことはないようなので、子どもたちも(博物館のリニューアルは)知らないと思う。ぜひ、こういうところにも知らせてほしい。また、公民館でもプログラム企画などを行っており、子どもだけでなく高齢者もいて、みんなが話を聞きたい、資料を見たいと思っているので、力を入れてほしいと思う。また、先ほど西口でたまたまあった方が、マラソンなどの催し物がある際、博物館の建物を一般人が通れないことがあり、車いすや目が不自由な方が困っていたと言っていた。できれば、そのような方は通れるようにしてほしいが、できない場合は、分かるように外に貼りだしてほしいとのことだった。

事務局 今、二か月に一回、総館長の歴史講座を行っている。休館中については、各区1回は出張講座を行う予定で考えている。各区それぞれで課題を見つけて講話を行うのに合わせて、博物館のリニューアルの状況もお伝えできればと思う。また、地域的な偏りもあるため、これまで地理的に博物館に縁遠かった方にも、博物館を知ってもらう機会になればと思う。休館が延びたため、具体化は先になるかもしれないし、公民館規模だとは難しいかもしれないが、少なくとも各区1回は実施するつもりである。

委員 公民館規模は難しいということだが、東区であれば、なみきスクエアがある。そのような場所では、これまで何か実施したことはあるか。

事務局 なみきスクエアでは、昨年11月に東区の文化祭でミニはにわづくりを出展し、地域の子どもたちを中心に博物館のことを紹介した。これ以外にも、おでかけワークショップという形で、博物館から公民館へ出向いて勾玉づくりや封泥体験を、高齢者の方も含めて行っている。情報が知られていないということは、広報があまり上手くいっていないということなので、休館前も、休館中ももっとわくわくするような広報を心掛けていきたい。博物館の導線については、現在仮囲いがあり、博物館にご意見をいただくこともあるため、できるだけ案内文を出すように注意していく。

委員 他の施設でアンケートや満足度の結果を聞くことがあるが、福岡市博物館では来館者にアンケートは実施しているか。

事務局 現在、一般的なアンケートは実施していないが、スポット的なものは実施した。例えば、去年はWi-Fiの継続が議論となったため、どんな人がどんな目的でWi-Fiを使っているかを尋ねるアンケートを実施し、参考にした。

委員 (アンケートがないと)ただのお客さんになってしまい、帰りがさみしいものになる。今後の新しい取り組みとして検討してもよいのではと思う。

委員 リニューアル後は、アンケートを実施したほうが良いと思う。やり方に困っているなら、専門家の委員に協力を仰いでもよいのでは。

委員 福岡タワーからサザエさん通りを歩いた際に、街路樹が壁となり、博物館が見えなかった。これは博物館の問題ではないかもしれないし、自然が豊富なのもよいが、博物館が見える形にできないものか。また、タワーで冬にアイスリンクが行われ、とても賑わっていたが、信号から博物館側に移動すると、賑わいがなく寂しい感じがした。サザエさん通りで、古本市のブックオカのようなイベントを行うなど、博物館の中だけでなく、周りも賑わうような企画を考えてもよいのではないかと思う。

委員 博物館のリニューアルは敷地内だけでなく、敷地外との連携も含めたものになると思うので、周辺を巻き込んでいくのもよいのではないか。

以上